

# 国立国際医療研究センター病院

## 歯科・口腔外科における

## 歯科医師臨床研修

国立国際医療研究センター病院

副病院長

歯科・口腔外科診療科長

丸岡 豊



# 国立研究開発法人



国立国際医療研究センター（東京都新宿区）

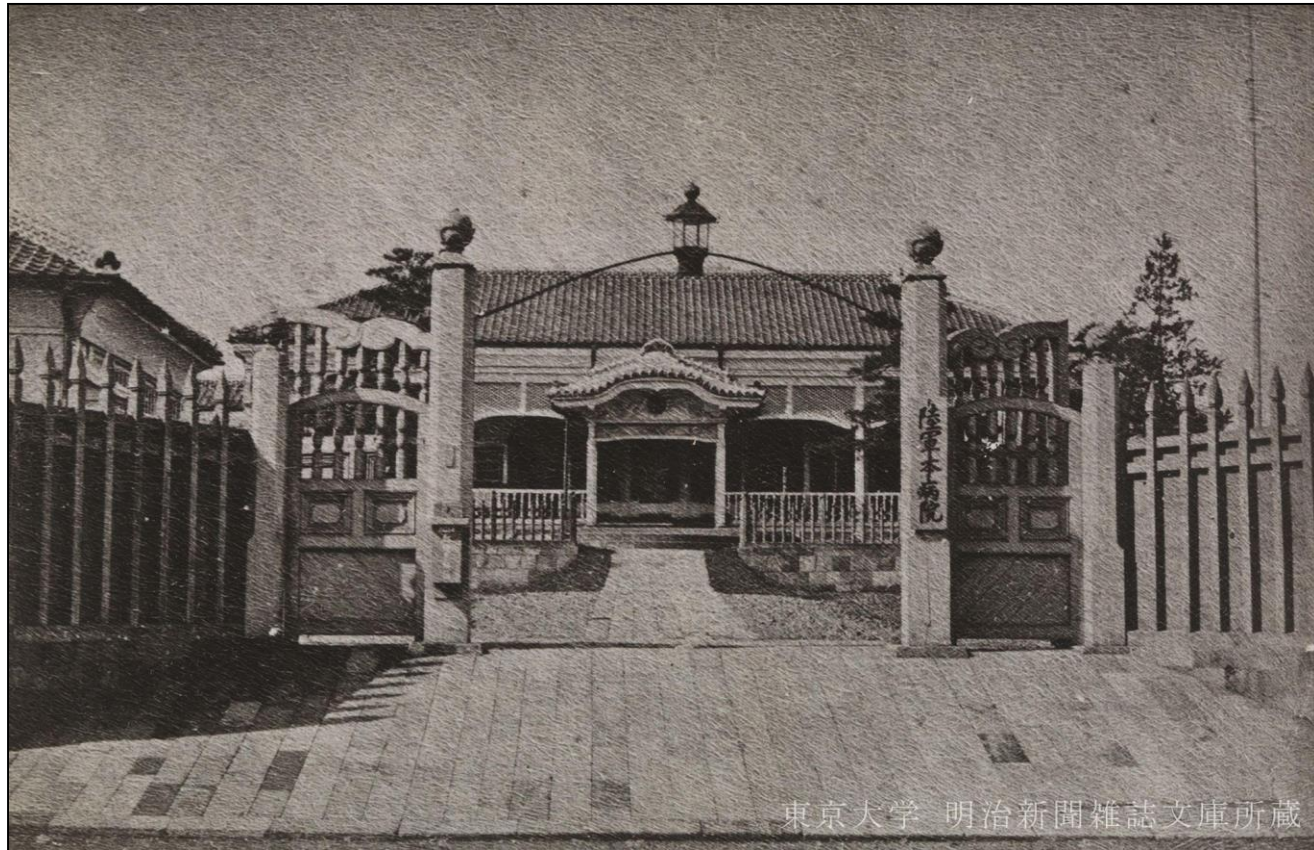
National Center for Global Health and Medicine: NCGM, Shinjuku City,  
Tokyo

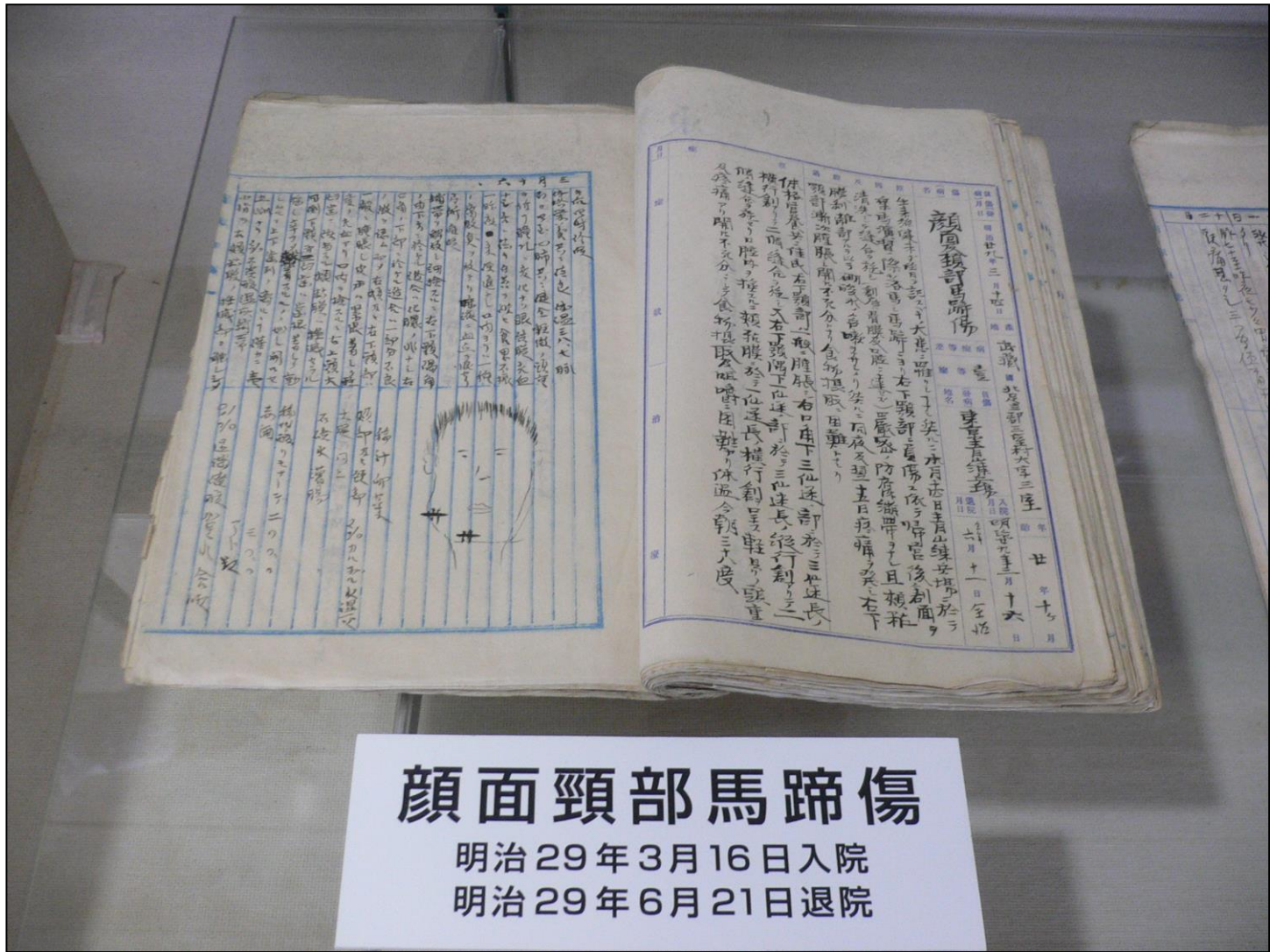


National Center for 2  
Global Health and Medicine: NCGM



# 陸軍本病院として創立（明治元年）



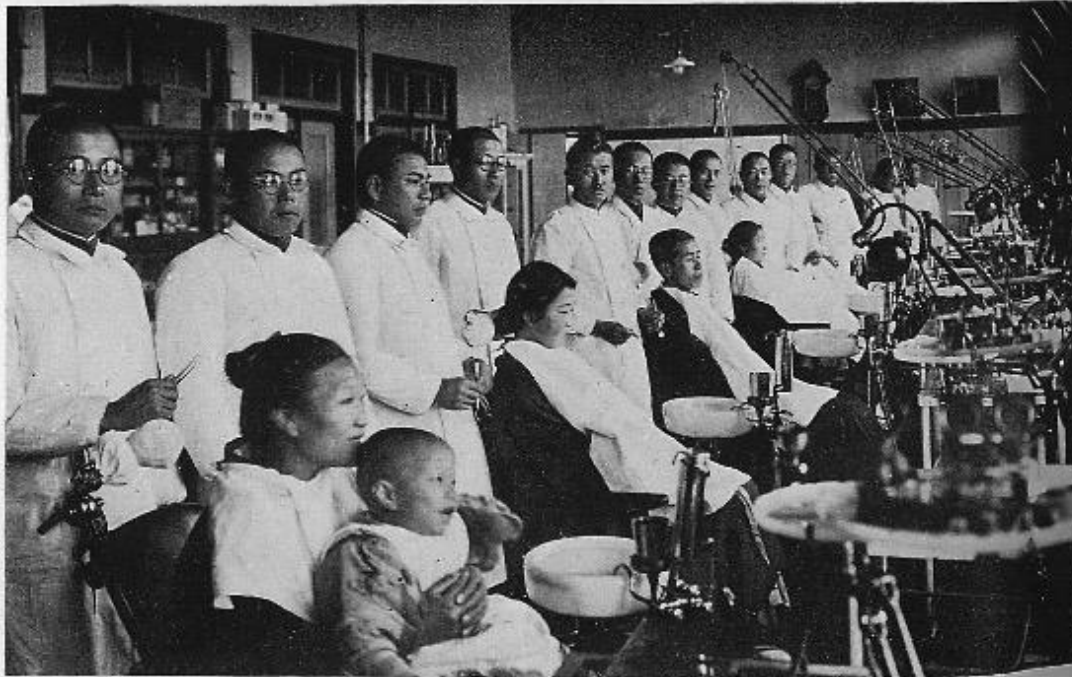


# 顔面頸部馬蹄傷

明治29年3月16日入院  
 明治29年6月21日退院



# 陸軍軍医学校口腔外科実習風景 (大正7年)



（科外腔口部辦診）習 實 科 外 腔 口



## NCGM 創立150周年記念事業



第7, 8, 11代院長  
森 林太郎(鷗外) 先生



# 国立国際医療研究センター病院 歯科・口腔外科の現状

- ・ 診療科長(副病院長・医長等併任) 1名
- ・ 常勤歯科医 3名,
- ・ 後期研修医 6名, 初期研修医 4名                      合計 14名
  
- ・ 特定機能病院,    病床数: 885床 (国府台病院: 772床)  
    (National Center 唯一の総合病院)
  
- ・ 先進医療 2件(全 10件)
- ・ 高難度新規医療技術 1件(全 4件)
- ・ 手術日: 週2日
- ・ 歯科ユニット 7台

# 当科で取得可能な専門医・認定医

- 日本口腔外科学会 認定医
- 日本口腔外科学会 専門医
- 日本顎顔面インプラント学会 認定医
- 日本顎顔面インプラント学会 専門医
- 日本有病者歯科医療学会 認定医
- 日本有病者歯科医療学会 専門医
- インфекションコントロールドクター
- 日本口腔内科学会 認定医（予定）



# NCGM 歯科・口腔外科の果たすべき役割

- ・ 病院歯科として：
  - － 入院中の患者の歯科治療
  - － 口腔マネージメント(周術期口腔機能管理)
- ・ 専門医療機関として：
  - － 一般歯科医院にて対処困難な症例の受け入れ
- ・ 研究機関として：
  - － 情報の発信源として
- ・ 研修機関として：
  - － 歯科研修医の教育

# NCGM 歯科・口腔外科の果たすべき役割

- ・ 病院歯科として：
  - 入院中の患者の歯科治療
  - 口腔マネージメント(周術期口腔機能管理)

# 病院歯科としての役割(多職種連携)

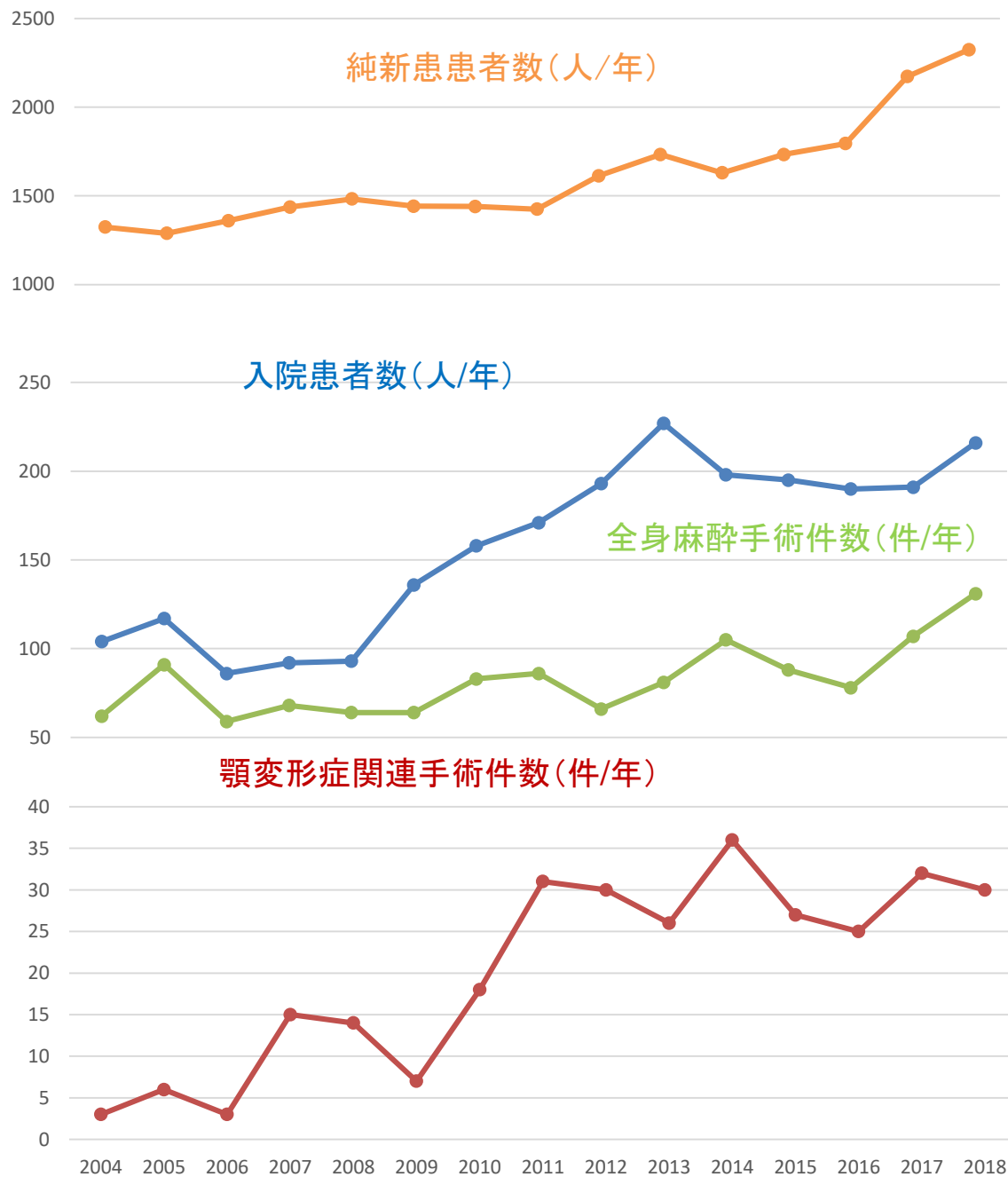
- 入院患者の歯科治療
- 周術期口腔機能管理(口腔ケア)
- 化学療法前等の感染源チェック
- 膵島移植プロジェクトへの参加
- 栄養サポートチーム(NST)への参加
- 呼吸サポートチーム(RST)への参加
- 緩和ケアサポートチームへの参加
- 救急病棟回診
- ICU回診
- HIV等感染症患者の歯科治療
- サリドマイド薬禍者等に対する歯科・口腔外科治療 等



# NCGM 歯科・口腔外科の果たすべき役割

- ・ 専門医療機関として:
  - 一般歯科医院にて対処困難な症例の受け入れ

# 臨床指標の推移



# NCGM 歯科・口腔外科の果たすべき役割

- ・ 研究機関として:
  - 情報の発信源として



# 現在までに行っている研究の一部

## 独自研究

顎骨骨幹異形成症に関する研究

- ★進行性下顎頭吸収の発症と治療に関する研究
- ★顎顔面の血管奇形病変に対する組織内レーザー照射法
- ★歯周外科治療への骨再生療法の研究
- ★ハンドピース内部の汚染状態の評価と院内感染対策の検討に関する研究

## 共同研究

- ★悪性血液疾患に対して化学療法を施行した患者の口腔内有害事象に関する研究  
(血液内科)
- ★ HIV感染者の歯科診療についての疫学的研究(ACC)
- ★ベトナムチョウライ病院ICU看護師の口腔ケア教育に関する介入研究  
(国際感染症センター)
- 周術期口腔管理に関する多施設共同研究 (首都圏の20病院)



# 現在までに行っている医工連携事業等

- ★三次元曲面形状計測装置を用いた顔面の形態的診断（浜野エンジニアリング）
- 口腔ケアのやりやすい人工呼吸器マスクの開発（東京都HUB機構）
- 口腔ケアのやりやすい頭部固定用器具（東京都HUB機構）
- 口腔内に用いるマーキング機材開発のための研究（ものづくりコモンズ）
- 舌がとてもきれいになる清掃器具（某企業）
  
- ★マイクロニードルパッチを用いた口腔粘膜炎の新しい治療法に関する研究  
（東京大学生産技術研究所・特許申請済）
  
- ★血友病の患者さん専用の歯ブラシの開発（実用新案取得）

# NCGM 歯科・口腔外科の果たすべき役割

- ・ 研修機関として:
  - 歯科研修医の教育



- 血糖値が高いんです.
- HIVの検査で陽性と言われました.
- 肝炎にかかったことがあります
- 半年前に心臓の手術をしました.
- 骨粗鬆症の薬を飲んでいます.
- がんの手術をして、今でも薬を飲んでいます.
- 転んで歯をぶつけてしまい、グラグラです.
- 妊娠しているんですけど…….
- 今度手術を受けるので口の中を診てもらえと言われました.

# 国立国際医療研究センター病院 研修環境

- ・ 国立国際医療研究センター病院における医科歯科共通の初期臨床研修プログラムは、将来進むべき領域におけるプライマリー・ケアと包括的医療の実践において必要な臨床能力の修得および開発を目的に考案された。
- ・ 歯科医師研修もこの方向に沿い、他科との密接な連携のもと、歯科医師として幅広い臨床能力の修得を目的としている。 医師の研修と同様に専門性・総合性を持つ歯科医師の育成のため、必修の1年目に加えて、2年目も継続することが望ましく、実質上必須としている。
- ・ 国立国際医療研究センター病院は、内科系21、外科系14、13のセンター診療部門を有し、またfree consultation system のため各科間の連携が非常に円滑であり、総合臨床病院として理想的な運営が行われている。このため全ての研修プログラムが他の施設に依存することなく当施設で可能であり、研修内容および基準の統一および管理そしてその維持を容易にしていることが特徴である。

# 国立国際医療研究センター病院 研修環境

- 研修においては、臨床研究の重要さも学ぶことが要求されており、学会発表なども積極的に行われている。研修終了後には、歯科研修医を含めた全研修医の参加の下に研修終了発表会が開かれ、研究発表能力の指導も受ける。この会でベスト研修医の表彰が行われる。
- 国立国際医療研究センターの特徴として外国からの留学医師や看護師に接する機会が多く、また外国人の患者をケアすることも多い。また、国際医療協力局の医師ばかりでなく、病院スタッフの多くも途上国に派遣され、国際協力に従事している。国際医療協力関係のカンファレンスも多く開かれており、国際的見地から医療を学べる等の利点もある。
- 本プログラムの目的は、“真の臨床能力”を有する“良い歯科医師”を育成することである。

# 国立国際医療研究センター病院 歯科プログラム

- 研修期間：2年  
（基本的には、後期3年との5年間のユニット）
- 募集人数：2人（2014年までは3人）  
競争率：5倍～8倍
- 臨床研修指導歯科医：4人
- 全科研修医に対するオリエンテーションに参加し、オーダリングシステムの使用法、処方、検査依頼、他科依頼の方法、院内の諸規則、患者への接し方の基本などを学んだ後、歯科・口腔外科に配属される。



# 国立国際医療研究センター病院 歯科プログラム

- 研修医第1年次

指導医と共に、外来診療、病棟診療、手術に参加し、歯科・口腔外科診療における基本的知識と技術を修得する。

外来：

初診患者の診断法（診療録の作成、病歴聴取、現症記載、診療用顎模型作製、口腔顎顔面写真撮影、X線写真撮影、バイタルサインの見分け方、各種臨床検査法、診断及び治療計画の立案、インフォームド・コンセントなど）

病棟：

入院患者の術前評価（病歴聴取、現症記載、各種術前検査の意義・解釈・実施、手術術式の検討）、入院患者の全身管理（静脈注射・点滴・胃管挿入・導尿などの各種基本手技、術後創傷処置法、薬物療法、術後全身管理法など）、口腔ケアやNST（栄養サポート）などのチーム医療への参加。

手術室：

手洗い法、ガウンテクニック、手術野消毒、感染予防の知識手技、手術見学、手術介助、全身麻酔法の見学など。



# 国立国際医療研究センター病院 歯科プログラム

- 研修医第1年次修了時の認定項目

|                      |    |
|----------------------|----|
| 外来診療から歯科治療に関するレポート   | 3編 |
| 外来診療から口腔外科治療に関するレポート | 3編 |
| 入院診療から歯科治療に関するレポート   | 5編 |
| 英文論文抄読               | 1編 |

日常診療やカンファレンス等での総合的な評価

以上の項目を4人の臨床研修指導歯科医, およびパラメディカルのスタッフ等の評価等も勘案し, 評価している.





# 国立国際医療研究センター病院 歯科プログラム

- 研修医第2年次： 第1年次の研修を踏まえて、臨床研修を行う。

外 来：

保存系研修, 補綴系研修, 口腔外科系研修

病 棟：

入院患者の担当医などチーム医療の一員として治療に参加する。また、口腔ケアやNSTなどのチーム医療へ関与を深め、往診等を行う。

手術室：

手術に参加する機会を積極的に与え、簡単な手術には術者として参加する。

他科研修： 麻酔科（2か月）、救急科（2か月）、国府台病院歯科（1か月）  
その他、国立成育医療研究センター病院歯科、全国療育センター歯科、  
東京医科歯科大学口腔外科 などに短期で派遣。



# 国立国際医療研究センター病院 歯科プログラム

- 研修医第2年次修了時の認定項目

英文論文抄読

1 編

症例報告などの学会発表

1 演題

研修修了発表会での発表（臨床研究に限る） 1 演題

麻酔科, 救急科, 国府台病院歯科での総合的な評価

日常診療やカンファレンス等での総合的な評価

以上の項目を4人の臨床研修指導歯科医, およびパラメディカルのスタッフ等の評価等も勘案し, 評価している.



# 当科研修医の出身大学（累計）

|            |    |
|------------|----|
| ・ 東北大学     | 13 |
| ・ 広島大学     | 6  |
| ・ 北海道大学    | 2  |
| ・ 長崎大学     | 2  |
| ・ 昭和大学     | 2  |
| ・ 東京歯科大学   | 2  |
| ・ 明海大学     | 2  |
| ・ 日本歯科大学   | 2  |
| ・ 九州大学     | 1  |
| ・ 大阪大学     | 1  |
| ・ 岡山大学     | 1  |
| ・ 岩手医科大学   | 1  |
| ・ 東京医科歯科大学 | 1  |

# 当科研修医の進路（累計）

|          |    |
|----------|----|
| ・ レジデント  | 14 |
| ・ 大学院    | 6  |
| ・ 診療所勤務  | 3  |
| ・ 病院歯科勤務 | 2  |
| ・ 行政     | 1  |

# 私の(個人的な)教育方針

若く熱意のある先生の将来を見据え、

- ・「自分の専門である歯科については他科と対等に渡り合える歯科医師」
- ・「地域包括ケアの中で専門を生かしながら他職種や行政と連携できる歯科医師」

などを目指し、まずは病棟などでしっかりと病気や病人と向かい合うべきである。

# 日本病院歯科口腔外科協議会の メンバーからのご意見





# 急性期病院の歯科の実際

- 教員と研修医, というよりも, 共に働く仲間である.  
(NCGMの言い方では「屋根瓦方式」)
- 研修医, というよりも貴重な労働力である.
- プログラム, というよりも日々の診療そのものが経験であり, 研修である.
- 研修の普遍性の確保は困難である.

# 急性期病院の歯科が 抱える問題点

- 歯科大学病院のように、体系的で網羅的なプログラムを実行することは困難である。
- 病院の中では極小診療科である。
- マンパワーが足りない。
- 「歯科の限界」を感じる
- 募集人員が少なく、国家試験の結果次第で研修医が0になってしまうこともある。

(3年間上記の状態が続くと研修施設から辞退しなければ  
ならない：注)

- 歯学部からの学生からの関心が低い。

# 急性期病院の歯科の優れた点

- 歯科は医学の一分野であることを実感（痛感）できる。
  - 口の中だけでなく全身の評価ができる。
  - 他科ドクターと対等に話ができる。
  - 日進月歩の医学に追いつくための勉強ができる。
- 他職種との垣根が低く，抵抗なく連携できる。
  - 摂食，嚥下，NSTなどでも頼りにされる。
  - 「地域包括ケアシステム」で求められる実力や経験を早くから積むことができる。

## 「骨太の方針」 2017・2018・2019

2017年

口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む。



2018年

口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者をはじめとする国民に対する口腔機能管理の推進など歯科口腔保健の充実や、地域における医科歯科連携の構築など歯科保健医療の充実に取り組む。



2019年

口腔の健康は全身の健康にもつながることからエビデンスの信頼性を向上させつつ、国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診、フレイル対策にもつながる歯科医師、歯科衛生士による口腔健康管理など歯科口腔保健の充実、入院患者等への口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組む。

# 結 論

- ・ 今後求められる歯科医師像は、顎口腔領域をしっかりと診られ、評価でき、医師やコメディカルと対等に患者の状態をそれぞれの専門領域からディスカッションができるような医学知識を身につける存在であろう。
- ・ 歯科に特化した教育は大切であるが、社会の中で歯科医師が欠くことべからざる存在になるためには、全身を確実に評価でき顎口腔機能をしっかりと考えながら病気を治すことができる「顎口腔専門医」になることが重要である。
- ・ そのためには、病院歯科での歯科医師臨床研修の火を消すことはあってはならない。